

平成22年度三重県公共事業事後評価箇所一覧表(県事業)

(単位:百万円)

事業名	番号	箇所名	市町名	全体事業概要と目的	採択年度	完了年度		事業の効果	事業の環境面への配慮及び事業による環境の変化	事業を巡る社会経済情勢等の変化	県民の意見	今後の課題	委員会意見概要	事業方針概要
						総事業費	総事業費							
						当初	当初							
							最終	最終						
港湾事業	501	長島港西長島地区	紀北町	<p>【事業概要】 防波堤 385m 岸壁 (-4.5m)300m (-5.5m)90m 物揚場 (-4.0m) 40m (-3.5m) 35m 泊地 (-5.5m) 8,750㎡ (-4.5m) 7,518㎡ (-3.5m) 490㎡ 臨港道路 845.1m 導流堤 120m</p> <p>【事業目的】 漁船の大型化や陸上トラック輸送へ対応する港湾施設整備により、漁業活動の効率化を図る。また、地域防災計画に位置付けられた耐震強化岸壁を整備し、地震時における輸送路の確保を図る。</p>	S55	H14	5,785	<ul style="list-style-type: none"> ・港湾整備前は、係留施設不足による滞船が生じていたが、今回の整備により改善が図られ、業務コストが削減された。また背後地の造成により交流機会の増加が図られた。 ・耐震強化岸壁の整備により、震災後一般貨物輸送によるCO2の排出量を年間33.4トン削減することが期待出来る。 ・係留施設の整備により、滞船時のアイドリングによるCO2の排出量を削減することが期待出来る。 ・耐震岸壁の整備により、緊急時における物資の輸送コストが削減され、また震災時における被害への不安の軽減、震災後の事業活動への不安の軽減、緊急物資輸送による地域住民の生活の維持等の効果が期待できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・耐震強化岸壁の整備により、震災後一般貨物輸送によるCO2の排出量を年間33.4トン削減することが期待出来る。 ・係留施設の整備により、滞船時のアイドリングによるCO2の排出量を削減することが期待出来る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・長島港の入港船舶隻数の平成11年から平成20年まで10年間の推移は、およそ25,000隻前後で横ばいの推移を示しています。直近の平成20年は約21,000隻と減少傾向となっています。また船種別では殆どが漁船となっています。 ・長島地区の漁船隻数の推移は、昭和60年から平成12年までの15年間は、ほぼ横ばいの推移を示していますが、平成12年から平成17年の5年間で約半数に減少しています。 ・長島港の取扱貨物量の推移は、平成11年から平成20年まで10年間の推移は、平成12年は2万4千トンでしたが、平成13年から石材の取扱量が増加し、平成14年には29万トンに達しました。その後、おおよそ20万トン程度で推移してきましたが、平成20年には1万8千トンに減少しました。直近の平成21年は前年とほぼ同様の1万9千トンとなっています。 ・長島港の取扱貨物の構成は、出入別では移入が多く、移出貨物のおおよそ3倍となっています。品目別では、移出貨物は重油が100%を占めています。移入貨物でも重油が47%で最も多く、次いで水産品が45%となっており、この2品目で移入貨物全体の9割以上を占めています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小型船だまりの整備による安全面、荷役効率等について、効果を感じているとの回答が多い。直近の平成20年は約21,000隻と減少傾向となっています。また船種別では殆どが漁船となっています。 ・耐震強化岸壁の整備による不安の軽減について、約半数が効果を感じていると回答している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・耐震強化岸壁の整備および効果について、周辺の住民へのさらなる認知度向上を図る。 ・町がハザードマップを2回配布している。今後も引き続き、さらなる啓発活動を推進する。 	<p>事業の効果、今後の課題については事後評価の妥当性を認める。</p>	<p>周辺住民や港湾利用者への港湾整備事業のより一層の周知や、想定される大規模地震等に対応する耐震強化岸壁の設置箇所、目的等を住民へ啓発する必要があります。</p> <p>港湾施設においては、従来から漁業の活性化や地元イベント等、周辺住民や港湾利用者の方々から多種多様な用途に利用していただいております。町に活性化に寄与することで港湾整備事業への理解を得ていると考えていますが、今後、港湾整備事業を実施する際は、現場付近に看板を設置する等、周辺住民や港湾利用者への認知度向上を図ってまいります。</p> <p>また、耐震強化岸壁の整備を行う際には、関係部局や市町に対し適切に情報提供することにより、住民の防災意識向上の一助としてもらうこととします。</p>
						H17	5,822	<ul style="list-style-type: none"> ・平成22年時点でB/Cは、1.57である。 						

平成22年度三重県公共事業事後評価箇所一覧表(県事業)

(単位:百万円)

事業名	番号	箇所名	市町名	全体事業概要と目的	採択年度	完了年度		事業の効果	事業の環境面への配慮及び事業による環境の変化	事業を巡る社会経済情勢等の変化	県民の意見	今後の課題	委員会意見概要	事業方針概要
						総事業費	総事業費							
						当初	当初							
海岸	502	道瀬地区	紀北町	<p>【全体事業概要】 突堤 2基(L=183m) 養浜 78,350m³ 砂止潜堤 L=228m 排水工 L=121m</p> <p>異常気象時の高潮・波浪等から海岸背後地の生命・財産を守るとともに、快適な海岸環境を整備する。</p>	H6	H18	1,172	<p>道瀬地区海岸は、台風などの高波時には越波により、背後人家の安全は危惧される状況となっていたが、平成17年度の事業完了後、多数の台風が上陸ないし接近したものの、背後の人家等に被害は発生せず、防護機能を発揮することができた。</p> <p>当海岸は吉野熊野国立公園内の恵まれた自然環境にあり、また海水浴や釣りなどの利用者が多い。そのため、海岸に設置した突堤や排水路は、来訪者の利用や自然景観との調和を考慮し、自然石を用いて整備を行った。</p>	<p>・道瀬地区の世帯数は事業完了時の平成17年から変化はなく、依然として防護の必要性は高い。</p> <p>・当海岸周辺には平成16年に世界遺産に登録された熊野古道があり、海岸堤防は散策ルートの一部として多くの散策者に利用されている。</p> <p>・当海岸周辺では高速道路の整備が進められており、平成24年度には紀伊長島インターが開通予定である。来訪者のほとんどが車を利用しており、高速道路の延伸により移動時間が短縮されるため、海岸を訪れる方の増加が期待できる。</p>	<p>・平成22年9月に道瀬地区海岸周辺の住民(77世帯)に対してアンケートを実施。</p> <p>また平成22年7月末から8月上旬の5日間にかけて道瀬地区海岸の利用者(69組)に対して聞き取り調査を実施。</p> <p>工事の目的について52%の方が認知しておりましたが、40%の方がご存じありませんでした。</p> <p>・安全面に関する満足度「満足」+「どちらかといえば満足」57%、「不満」+「どちらかといえば不満」15%</p> <p>・海岸環境・景観保全に関する満足度「満足」+「どちらかといえば満足」45%、「不満」+「どちらかといえば不満」10%</p> <p>・海岸利用者の満足度「満足」+「どちらかといえば満足」97%、「どちらかといえば不満」3%</p> <p>・事業全体の満足度「満足」+「どちらかといえば満足」57%、「不満」+「どちらかといえば不満」9%</p>	<p>課題・問題点 ・津波への対応 ・工事内容などの周知不足</p> <p>今後の留意事項 ・津波に対する避難啓発の推進。 ・避難時間を確保するため陸間動力化の推進。 ・計画段階で地区住民に対して事業の目的や内容等について十分説明し、地域の意見を反映していく。</p>	<p>課題に対する対応方針を含めた事後評価の妥当性を認める。</p> <p>なお、海岸環境整備事業などの、県民等による施設の利用を想定する事業については、完成後の管理の方法などについて、計画当初から住民参画による計画をされた。</p>	<p>海岸利用者アンケートの結果から、「ゴミが多い」との意見がありました。完成後の維持管理にたいし、地元市町とは協議を行っていましたが、地域住民レベルでの参画を促していなかったことが課題であると考えられます。また、背後住民アンケートの結果から、「津波に対する不安がある」との意見がありました。津波に対してはハードによる対策には限界があるため、ソフト対策によることとしていますが、周知が不十分であることが課題であると考えられます。</p> <p>海岸清掃については、「海岸美化ボランティア」制度を活用し住民参画による清掃を行っています。今後は完成後の管理の方法についても、事業の計画段階から地元市町に加え、地域住民の意見を取り入れていきます。津波に係る防災対策については、地元と協議の上、必要に応じて避難啓発看板や避難階段の設置を行い周知を図ります。</p>	
						H17	1,146							

平成22年度三重県公共事業事後評価箇所一覧表(県事業)

(単位:百万円)

事業名	番号	箇所名	市町名	全体事業概要と目的	採択年度	完了年度		事業の効果	事業の環境面への配慮及び事業による環境の変化	事業を巡る社会経済情勢等の変化	県民の意見	今後の課題	委員会意見概要	事業方針概要
						当初	当初							
						最終	最終							
海岸	503	阿津里浜地区	志摩市	【全体事業概要】 人工リーフ 140m(1基) 突堤125m(1基) 緩傾斜護岸471m 養浜61,900m3 排水工66m	H5	H17	2,537	台風などの高波時には越波により、背後人家の安全は危惧される状況となっていたが、平成17年度の事業完了後、多数の台風が上陸ないし接近したものの、背後の人家等に被害は発生せず、防護機能を発揮することができた。	当海岸は伊勢志摩国立公園内に位置していることから、人工リーフを採用し、海面上に消波ブロックが突出しないようにした。また、突堤や排水工の被覆材については、ブロックの代わりに石材を使用し、景観に配慮した。	<ul style="list-style-type: none"> 当海岸の背後は、多くの利用者が毎年訪れるオートキャンプ場や、観光施設が整備されているため、防護の必要性は依然として高い。 当海岸では、養浜の整備を平成12年～13年に実施後しており、養浜実施後の平成16年度以降、海水浴等を目的としたキャンプ場利用者数が増加傾向になっている。これに伴い海岸利用者数も増加していると推測される。 平成17年の志摩大橋の完成により、当海岸まで国道260号バイパスを経由して行けるようになった。バイパス開通前の現道は、幅員が狭く、自動車のすれ違いが困難で、観光シーズンには混雑が発生していたが、バイパスの開通により円滑な通行が確保され、利用者数の増加に寄与したと考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 平成22年9月に阿津里浜海岸の周辺住民(35世帯)に対してアンケートを実施。 また平成22年7月末から8月中旬の5日間にかけて当海岸の利用者(289組)に対して聞き取り調査を実施。 安全面に関する満足度「満足」+「どちらかといえば満足」92%、「不満」+「どちらかといえば不満」10% 環境面や景観面に関する満足度「満足」+「どちらかといえば満足」76%、「不満」+「どちらかといえば不満」18% 当事業が地域活性化に寄与したかという質問「活性化が図られた」55%、「活性化が図られていない」0% 事業全体の満足度「満足」+「どちらかといえば満足」10人、「不満」+「どちらかといえば不満」10人 海岸利用者の満足度「満足」+「どちらかといえば満足」88%、「不満」+「どちらかといえば不満」10% 	<p>課題・問題点</p> <ul style="list-style-type: none"> 事業着手時には、地元住民との間で十分な意見調整を図る仕組みが確立していなかった。 海岸利用者が、当海岸をもっと快適に利用出来ることを望んでいる。 <p>今後の留意事項</p> <ul style="list-style-type: none"> 事情効果について分かりやすく、十分な説明を地域住民の方に対して行う。 利用面に配慮した海岸とするため、事業実施前に地元の観光部局や、背後の地域の方々と調整を行い、改善策を見いだしていく。 	<p>課題に対する対応方針を含めた事後評価の妥当性を認める。</p> <p>なお、海岸環境整備事業などの、県民等による施設の利用を想定する事業については、完成後の管理の方法などについて、計画当初から住民参画による計画をされた。</p>	<p>海岸利用者アンケートの結果から、「ゴミが多い」との意見がありました。完成後の維持管理については、計画段階から地元市町とは協議を行っていましたが、地域住民レベルでの参画を促していなかったことが課題であると考えられます。また、背後住民アンケートの結果から、「津波に対する不安がある」との意見がありました。津波に対してはハードによる対策には限界があるため、ソフト対策によることとしていますが、周知が不十分であることが課題であると考えられます。</p> <p>海岸清掃については、「海岸美化ボランティア」制度を活用し住民参画による清掃を行っていますが、今後は完成後の管理の方法についても、事業の計画段階から地元市町に加え、地域住民の意見を取り入れていきます。津波に係る防災対策については、地元と協議の上、必要に応じて避難啓発看板や避難階段の設置を行い周知を図ります。</p>
						H17	2,103							

平成22年度三重県公共事業事後評価箇所一覧表(県事業)

(単位:百万円)

事業名	番号	箇所名	市町名	全体事業概要と目的	採択年度	完了年度		事業の効果	事業の環境面への配慮及び事業による環境の変化	事業を巡る社会経済情勢等の変化	県民の意見	今後の課題	委員会意見概要	事業方針概要	
						総事業費	総事業費								
						当初	当初								
							最終	最終							
街路事業	504	都市計画道路環状1号線(垂坂工区)	四日市市垂坂地先	【全体事業内容】 延長 L=1.08km 幅員 W=6.0(16.0)m	H7	H15	2,028	<ul style="list-style-type: none"> ■ 費用便益比 ・B/C=3.6 ■ その他の効果 ・日常生活の利便性が向上。 ・旧道では、大型車交通量の減少によりすれ違いがし易く、安全になった。 ・歩道の設置により、通学路として児童の安全を確保。 ・周辺地域の人口は増加傾向にあり、地価は周辺に比べ下落率は小さい。 	植樹により道路と周辺環境との調和に配慮し、また、舗装にリサイクル材を使用し、建設資材のリサイクル推進に努めました。	周辺の道路では慢性的な交通渋滞が発生し、それを解消するために様々な事業が展開されています。 当該区間の延伸部にあたる四日市市事業の環状1号線は、平成23年1月供用開始に向け工事を進めている。 近鉄川原町駅付近の連続立体交差事業は、鉄道の高架化により、踏切による交通渋滞を解消します。 国道1号北勢バイパスは、国道1号と国道23号に集中する交通量を分散し、慢性的な渋滞を解消します。現在、垂坂町まで部分供用されています。	地域の住民の方に当該路線に関する意見を得るためにアンケートを実施し789名の方から回答を得ました。総合的な評価としては「非常に満足」、「やや満足」合わせて約65%が満足との回答をいただきました。	街路事業は、市民生活や経済活動等に伴う交通の円滑化を図るのみでなく、沿道の市街地化を誘導する機能を併せ持つなど、重要な役割を担っているため、計画的な整備を推進していきたいと考えています。	課題に対する対応方針を含めた事後評価の妥当性を認める。ただし、今後の歩道等の計画・施工において、バリアフリーについて十分留意されたい。	住宅地域に整備する街路事業は、利用する歩行者等の安全で円滑な移動を確保することが必要であるため、バリアフリー化等の取組が重要となります。 また、周辺住民のアンケートの結果、当街路事業については都市内交通の円滑化が図れ、地域の利便性が向上したものの、遠心部にあたる四日市市事業の環状1号線が事業中であり、現道に接続する交差点での渋滞緩和を求める意見を多くいただきました。 街路事業は都市内において実施する道路の改築事業であり、従前のマウンドアップ形式から歩道と路面高さとの段差を少なくしたフラット形式に工法の移行を行う等、歩道のバリアフリー化を推進し安全で円滑に移動できる歩行空間の確保に努めています。 なお、当該路線の現道接続部等における渋滞については、先線である環状1号線の四日市市施工部分が平成22年12月24日に供用を開始されたことにより、緩和されました。	
															H16

平成22年度三重県公共事業事後評価箇所一覧表(県事業)

(単位:百万円)

事業名	番号	箇所名	市町名	全体事業概要と目的	採択年度	完了年度		事業の効果	事業の環境面への配慮及び事業による環境の変化	事業を巡る社会経済情勢等の変化	県民の意見	今後の課題	委員会意見概要	事業方針概要	
						総事業費	総事業費								
						当初	当初								
						最終	最終								
都市公園事業	505	亀山サンシャインパーク	亀山市	【全体事業概要】 面積 14.2ha ウッドデッキ、遊歩道、芝生広場、キッズランド(大型遊具)、バーベキューランド、水の遊び場、ウォーターガーデン、駐車場等	H3	H15	4,141	(1) 費用対効果分析結果 ・便益(B) 17,115百万円 ・費用(C) 7,528百万円 ・B/C 2.27 (2) ハイウェイオアシスとしての効果 ・近隣の亀山市、鈴鹿市などから、遠方の愛知県など、ハイウェイオアシスとして広域の利用が見られる。 ・散策、高速道路利用中の休憩、子どもの遊びなどの利用が見られる。 (3) 観光振興等地域活性化に関する効果 ・自然観察会や写真コンクール等、地域資源を活かした環境学習の開催や、移動動物園等の各種行事の開催を通じて観光振興に寄与している。 (4) 長寿・福祉社会への対応に関する効果 ・池沿いのデッキをスロープでつなぎ、誰もが水辺に近づけるよう配慮した他、バーベキューランド、便所などにおいてバリアフリーに対応したことにより、利用実態調査においても効果が確認できる。	(1) ため池、丘陵地環境及び景観の保全 ・高塚池とその周りの丘陵地の景観を保全。 ・利用実態調査でも、9割近くの人が「公園の自然環境の豊かさを感じる」と回答。	(1) 上位計画との整合 ・亀山都市計画区域マスタープランにおいては鈴鹿山麓と伊勢湾をつなぐ緑地ネットワークの一環として位置づけられており、ため池及び丘陵地に囲まれたレクリエーション空間づくり等、本公園の整備内容と一致している。 (2) 利用満足度 ・「亀山サンシャインパークにまた来たいか」との問いに、利用実態調査では90%近くが「はい」と回答。 ・施設別では、「遊歩道」「芝生広場」「オアシス館」の満足度が比較的高い。 (3) 周辺観光施設の状況 ・周辺に閑宿(歴史を感じさせる街並、祭りなどの行事開催)、かめやま美術館(文化施設)、羽黒山(景勝地)などがあり、観光振興を図っている。これらの観光案内をハイウェイオアシスとして広域利用が見込める本公園で行い、地域活性化に寄与している。	(1) 利用者の属性 ・アンケート調査の回答者442人の居住地は、亀山市が3割弱、鈴鹿市・津市・四日市市からそれぞれ1割前後、愛知県などの県外からの利用も3割程度を占める。 (2) 利用満足度 ・「亀山サンシャインパークにまた来たいか」との問いに、利用実態調査では90%近くが「はい」と回答。 ・施設別では、「遊歩道」「芝生広場」「オアシス館」の満足度が比較的高い。 (3) 公園についての意見、要望(多いもの) ・案内サインを増やしてほしい、もっと公園についてPRをしてみたい。 ・駐車場の少ない(土日に混雑)。など	(1) 事後評価のまとめ ・費用対効果分析、観光振興、長寿・福祉社会対応、利用者数推移などを踏まえ、事業の効果は発現されてきている。 (2) 今後の事後評価の必要性 ・まとまった施設の改修や更新の際には、利用状況に見合った事業投資となっているかどうか検証する必要がある。 (3) 改善措置の必要性 ・案内サイン、公園のPRや、施設改善等が求められている。	審査を行った結果、事業の効果、今後の課題について、事後評価の妥当性を認める。 ただし、下記の意見を付するものである。 1 今後の都市公園事業の推進においては、防災機能を含めて県民が利用しやすいような取り組みを絶えず進められたい。 2 施設のバリアフリー化については、利用者の立場に立って、絶えず改善する取り組みを進められたい。 3 アンケートにおいては、具体的な長所・短所を収集する努力を進められたい。 4 費用対効果の分析においては、マニュアルにとらわれない計算を行うこと。	公園は、県民に快適な空間を提供する施設であるとともに、災害時の避難地となる等、防災面においても有効に利用できる施設である必要があります。 また、誰もが安全で安心して利用できるように常にバリアフリーに留意していく必要があります。 事業評価時のアンケート等については、具体的な情報収集を行うことが必要です。 また、公園の実態を的確に把握し、現実に即した事業評価を行うことが大切です。 通常時の利用だけでなく、非常時にも公園が有効に利用いただけるよう、関係者との連携や情報共有に努めます。 また、多くの利用者に安心して利用いただくよう施設のバリアフリーが確保できるよう維持管理します。 アンケート実施の際には、長所・短所を具体的に収集し維持管理に反映できるよう努めます。 また、評価時の費用対効果分析は、原則としてマニュアルに基づき行いますが、必要に応じて現実に即した、柔軟な分析も行い効果をわかりやすく説明します。	
				H16		4,651	(1) 当該箇所は東名阪自動車道、伊勢自動車道、新名神高速道路、国道1号、国道25号が交わる交通の要衝に位置し、ハイウェイオアシスとして、利用者に快適な休息空間を提供する。 (2) 北勢地域等の住民に、パーキングエリアとの一体化による利便性の高い行楽レクリエーション空間を提供する。 (3) 大阪圏や名古屋圏の住民等広域利用が見込まれる中で地域のイメージを高め活性化に資する。								

平成22年度三重県公共事業事後評価箇所一覧表(県事業)

(単位:百万円)

事業名	番号	箇所名	市町名	全体事業概要と目的	採択年度	完了年度		事業の効果	事業の環境面への配慮及び事業による環境の変化	事業を巡る社会経済情勢等の変化	県民の意見	今後の課題	委員会意見概要	事業方針概要
						総事業費	総事業費							
						当初	当初							
							最終	最終						
都市公園事業	506	大仏山公園	伊勢市・明和町・玉城町	【全体事業概要】 整備面積37.2ha	S55	H16	6,472	(1)費用対効果分析結果 B/C=2.65 (2)観光振興等地域活性化に関する効果 ・年2回開催されるフェスティバルの開催が定着しており、月別来園者数は開催月が最も多い。 ・オリエンテーリングコースが設置されており、各種団体に利用され、平成20年には大会が開催された。 ・地元環境団体による自然体験・自然調査などの活動、地元学校による遠足や学習の場、各種団体による大会会場などにも利用されている。	古墳・埋蔵文化財等の保全 ・大学等による調査、研究が行われ、古墳群遺跡から出土した遺物は保管され、文化財の保全が図られている。	(1)上位計画との整合 ・伊勢都市計画区域MPにおいては、住民及び来訪者のふれあいの場として整備するとされており、当公園整備の方向性と一致している。 (2)周辺施設の状況 ・隣接する大仏山公園スポーツセンターが平成7年に開園し、運動レクリエーションの拠点が形成された。 (3)社会状況、住民ニーズへの対応 ・環境への視点も重要となる中で、従来の里山を活かした整備とするなど、社会経済情勢や住民ニーズへの対応を行っている。	(1)来訪者属性 ・アンケート調査の回答者507人の居住地は、伊勢市が5割、明和町が2割、玉城町及び松阪市がそれぞれ1割弱を占め、来訪頻度が月に2回以上の来訪者が5割以上となっており、地域に身近な公園となっている。 (2)利用者の満足度 ・自然、くつろぎ、安全の評価が高く、回答者の約96%が再来園の意向を示している。 ・施設別では、大型遊具や中央広場、子供広場、芝生広場における満足度が最も高くなっている。 ・遊具や公園までの案内については、1割の方が不満に感じている。 (3)公園についての意見・要望 ・遊具・休憩施設や木陰の追加改善、・ゴミ箱の設置、・植栽管理改善(剪定・除草)、・利用者マナー改善など	(1)事後評価のまとめ ・費用対効果分析のほか、観光振興、長寿・福祉社会、自然共生など、事業効果が発揮されている。 (2)今後の事業評価の必要性 ・大規模な施設改修及び新たな施設導入などの際には、利用状況に見合った事業投資となっているかどうか検証する必要がある。 (3)改善措置の必要性 ・遊具、休憩施設の追加やゴミ箱設置などハード整備の他、植栽管理や利用者のマナー向上が求められている。	審査を行った結果、事業の効果、今後の課題について、事後評価の妥当性を認める。 ただし、下記の意見を付するものである。 1 今後の都市公園事業の推進においては、防災機能を含めて県民が利用しやすいような取り組みを絶えず進められたい。 2 施設のバリアフリー化については、利用者の立場に立って、絶えず改善する取り組みを進められたい。 3 アンケートにおいては、具体的な長所・短所を収集する努力を進められたい。 4 費用対効果の分析においては、マニュアルにとらわれず、現実に行なった計算を行うこと。	公園は、県民に快適な空間を提供する施設であるとともに、災害時の避難地となる等、防災面においても有効に利用できる施設である必要があります。 また、誰もが安全で安心して利用できるようにバリアフリーに留意していく必要があります。 事業評価時のアンケート等については、具体的な情報収集を行うことが必要です。 また、公園の実態を的確に把握し、現実に行なった事業評価を行うことが大切です。 通常時の利用だけでなく、非常時にも公園が有効に利用いただけるよう、関係者との連携や情報共有に努めます。 また、多くの利用者に安心して利用いただくよう施設のバリアフリーが確保できるよう維持管理します。 アンケート実施の際には、長所・短所を具体的に収集し維持管理に反映できるよう努めます。 また、評価時の費用対効果分析は、原則としてマニュアルに基づき行いますが、必要に応じて現実に行なった、柔軟な分析も行い効果をわかりやすく説明します。
				(1)中南勢地域の核となる広域的なレクリエーションの場の提供 (2)水と緑に囲まれたスポーツレクリエーションゾーンの形成 (3)自然と古墳群を活かした公園整備				H16						

平成22年度三重県公共事業事後評価箇所一覧表(県事業)

(単位:百万円)

事業名	番号	箇所名	市町名	全体事業概要と目的	採択年度	完了年度	総事業費	事業の効果	事業の環境面への配慮及び事業による環境の変化	事業を巡る社会経済情勢等の変化	県民の意見	今後の課題	委員会意見概要	事業方針概要
						当初	当初							
						最終	最終							
道路事業	507	一般国道260号(下津浦拡幅)	南伊勢町 木谷、神津佐	【全体事業概要】 延長 L=2,310m 幅員 W=6.0(10.0)m 主要構造物 トンネル 1本 橋梁 3橋	S63	H17	5,763	安全で円滑な交通を確保するとともに、住民の安心な暮らしの確保や地場産業の振興に寄与しています。	伊勢志摩国立公園第3種特別地域内であるため、環境省と協議し、積極的に切土法面の緑化を図っています。	当該路線は熊野灘沿いの地域を連絡する唯一の幹線道路であり、緊急輸送道路の指定も受けていることから、当該道路の重要性に大きな変化はありません。 また、平成17年に旧南伊勢町の中学校が南勢中学校1校に統廃合され、遠隔地の生徒はスクールバス通学となりました。スクールバスの経路として国道260号の重要性が増しています。	当該事業に対する近隣住民等の利用状況や意見を得るため、アンケートを実施し、1,486名から回答を頂いています。整備に対する評価としては、「非常に満足」、「やや満足」を合わせて76%が満足との回答を得ています。	国道260号としては、木谷地区に未整備区間が残っていることから安全で円滑な通行の支障となっています。既に木谷地区の事業に着手していますが、事業の実施にあたっては、段階的な供用も含め、早期効果の発現に努めていきます。	課題に対する対応方針を含めた事後評価の妥当性を認める。	一般国道260号下津浦拡幅工区と隣接する木谷地区では、道幅が狭く、急カーブが連続している未改良区間が残っていることから、安全で円滑な通行に支障をきたしており、下津浦拡幅工区の事業効果を一層発揮するためにも、この未改良区間の早期整備が必要です。 木谷地区の未改良区間の整備については、平成16年度から事業を進めており、平成22年5月に延長0.5kmを供用しています。 引き続き、整備した区間を順次部分供用するなど早期効果の発現に努めてまいります。
				H17		6,083	【事業目的】 安全で円滑な交通の確保を図るとともに、緊急輸送道路としての機能強化を図ります。							

平成22年度三重県公共事業事後評価箇所一覧表(県事業)

(単位:百万円)

事業名	番号	箇所名	市町名	全体事業概要と目的	採択年度	完了年度	総事業費	事業の効果	事業の環境面への配慮及び事業による環境の変化	事業を巡る社会経済情勢等の変化	県民の意見	今後の課題	委員会意見概要	事業方針概要
						当初	当初							
						最終	最終							
各部共通		総括意見											<p>今回のアンケート結果の分析と対応については、従前より委員会からの指摘をいただいていたことから、アンケートにおける事業の満足度調査にあたっては、満足できない理由を把握できるよう設問を検討したり、満足できない理由について現場を把握し改善に努めるなどの対応を行ってまいりました。引き続き、アンケートに改善を加えながら利用者や住民の意見を把握し今後の事業に反映できるよう努めてまいります。</p>	